

病害虫発生予察地区報 第2号

—— 地区情報 ——

害虫名：ナラウススジハマキホソガ
学名：*Caloptilia querci*
発生物種：クリ

1 情報の内容

ナラウススジハマキホソガの発生が確認された。本種はクリで5～6月に食害し葉巻症状となる。

2 対象地域

南信地域のクリ園

3 発生経過

平成30年5月頃、南信地域のクリ園において虫害とみられる葉巻症状の被害が多数確認された(図1)。現地では、5年ほど前から葉巻症状が確認されていた。被害葉を採取して幼虫を羽化させたところホソガ類とみられる蛾が確認された。そこで令和元年5月、発生園地のクリおよび隣接するクヌギから被害葉を採取し、京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授大島一正氏に同定を依頼した結果、12月にナラウススジハマキホソガ(*Caloptilia querci*)であると同定された。本種は、近隣県において発生の記録があり、従来から長野県でも分布しているものとみられる。

4 形態

成虫は開帳約12～14mm。頭部は灰黄色～暗黄色で色彩、斑点には変異が多い(図2)。幼虫は体長約8mm、黄緑色で体内が透けて見える(図3)。

5 生態と被害

- (1) 北海道、本州、九州、西南諸島などに分布し、クリ、シイ類、クヌギ、コナラ(ブナ科)などの葉を食害する。
- (2) 1～3齢の幼虫は葉裏の組織に潜入して食害し(図3)、その後脱出して1枚の葉を先端から内側へ巻いてその中で摂食を続ける。
- (3) 老熟すると葉を巻いた部分から移動し、葉脈間をつづってボート型の繭をつくりその中で蛹化する(図4)。年2化、蛹で越冬するとされる。
- (4) 本県におけるクリでの被害は、5月から6月にかけて第1世代幼虫による被害葉がみられるが、7月以降に発生する第2世代による巻葉症状等の被害は確認されていない。なお、現在のところ本種による実害は確認されていない。

6 防除対策

- (1) 令和元年12月24日現在のところ、本種に対する農薬登録はない。



【南信農業試験場提供】



図1 クリの葉巻被害



【南信農業試験場提供】

図2 ナラウスジハマキホソガ成虫



【南信農業試験場提供】



【南信農業試験場提供】

図3 ナラウスジハマキホソガ幼虫



【南信農業試験場提供】

図4 ナラウスジハマキホソガ繭

長野県病虫害防除所
丸山秀樹（所長） 柳澤和也（担当）
TEL：026-248-6471（直通）
FAX：026-248-6473
E-mail bojo@pref.nagano.lg.jp